

〔公立宍粟総合病院プログラム〕

1. 病院の概要

公立宍粟（しろう）総合病院は、兵庫県北西部に位置する宍粟市唯一の病院です。宍粟市は京阪神と中国地方を結ぶ中国自動車道と、山陽と山陰を結ぶ国道 29 号線が交差する西播磨内陸の交通の要衝であり、面積は 658.6 km²と兵庫県土の 7.8%を占め、淡路島の約 1.1 倍の面積を有しています。当院は、西播磨北部における地域医療の中核となっており、12 診療科を有し、高度医療、救急医療、人工透析、人間ドックなど地域ニーズに対応した医療の提供を行っています。

2. プログラムの特色

マンツーマン指導により、一般症例を数多く診ることができます。地域医療では地域の医療サービスや病診連携のあり方を学ぶことにより医療連携についてより理解を深めることができます。

診療各科において経験豊富な指導医のもとで、豊富な症例を経験することができ、また、各科の垣根が低いため、専門医やコメディカルスタッフの指導の下、一般診療に必要な疾患を多数経験できます。

3. 臨床研修の目標

一般的な診療において頻繁に関わる負傷または疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身につけ、さらに患者の意思を尊重し、最適で安全な医療を提供できるようインフォームドコンセントや診療録の記載方法、医療を提供する上で発生する諸問題の的確な把握と解決手段の基礎知識を身につけることを目標としています。

4. 病院へのアクセス

自家用車利用の場合

中国自動車道を山崎インターで下車（鳥取方面） 国道 29 号を北へ
最初の交差点を左折（千種・佐用方面）
4 つめの信号を左折すると病院駐車場があります。

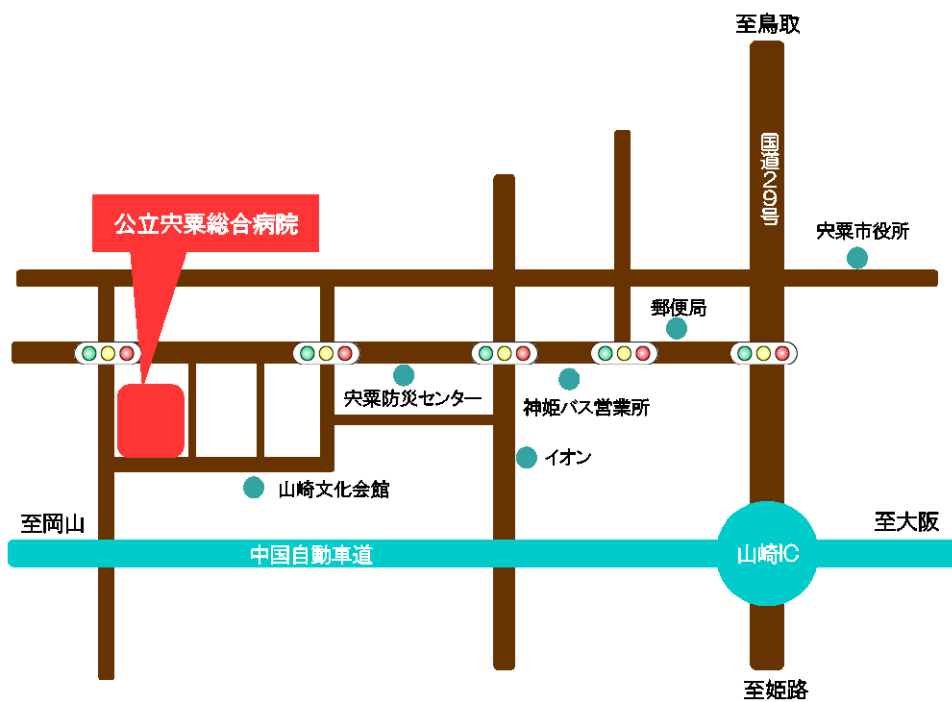
J R 三ノ宮駅から

神姫バス三ノ宮バスターミナルから 山崎行 90 分

J R 姫路駅から

姫路駅北口バスターミナルから山崎行

④乗場から 林田 経由 山崎行 約 60 分
山崎バスターミナルから病院まで徒歩 5 分



5. 生活面について

医師用官舎を安価で貸与します。(病院まで徒歩1分)

病院から徒歩2分にコンビニ、徒歩5分にイオン山崎店があり、日常生活に不便はありません。

また、病院内に職員食堂(昼食のみ)、売店があります。

山間部ではありますが、高速道路利用で神戸、大阪にも1時間程度で行け、非常に便利な場所にあります。

〔公立中央総合病院 内科〕

【研修の内容と特徴】

臨床研修到達目標に基づき、臨床医療を遂行するための内科全般に対する基礎的知識と診療技術を習得するとともに、医の倫理に沿った医療を実践する。

具体的には、以下のような能力を有することが期待される。

- 1) 生涯教育を受ける習慣、態度を身につける。
- 2) 医療の科学的妥当性の判断力と探究能力を養う。
- 3) 自己の能力を自覚し、他の専門職と連携する能力を身につける。
- 4) メディカルスタッフとの協調性を保ち、チーム医療の主導的立場を自覚する。
- 5) 診療を通し、患者ならびに家族との信頼関係が築ける人間的資質を身につける。
- 6) 高い倫理観と豊かな人間性を身につける。
- 7) 総合的な内科疾患の診断力を身に付ける。

【研修の実際】

1. 消化器内科

消化器内科では、日常よく遭遇する消化器症状を理解し適切な診断方法を選択したうえで診断に至ることが出来、適切な治療方法を選択し、指導医に報告することを初期目標とする。

- ① 食道、胃、小腸、大腸に至る消化器疾患及び肝、胆、膵疾患等を扱っている。常に最先端の検査と治療を取り入れ、消化器疾患に対する緊急を含めた総合医療体制を取っている。研修を通じ消化器全般の諸疾患の病態把握、基本的手技及び救急処置法の修得ができる。
- ② 上部下部消化管内視鏡検査、上部下部消化管透視、腹部エコー、造影超音波エコー、上部下部消化管ポリペクトミー、粘膜切除術、粘膜下層剥離術、EVL、ERCP、EST、総胆管結石破碎術、各種ステント挿入術、PTCD、PTGBD、PEG、各種エコー下生検、白血球除去療法など幅広い消化器疾患に対する検査、治療が修得できる。

2. 腎臓内科

- ① 一次性の腎疾患のみならず、糖尿病、高血圧、膠原病等の全身疾患の発現場所である腎臓の臓器特異性を理解し、的確な診断、治療、管理を行う能力を体得する。
- ② 急性あるいは慢性期の病態に柔軟に対応し、患者さまに対しては疾患の理解と自覚を促し、適切な生活指導を行う能力を体得する。
- ③ 慢性腎不全の管理と透析導入、維持透析及び長期透析合併症の適切な対応が行える能力を体得する。

3. 糖尿病・代謝・内分泌内科

糖尿病の代謝動態を的確に判断し、その病態にあった治療法を選択でき、また患者さまの生活習慣、家族歴、食事内容、肥満の有無等を総合的に判断する能力を体得する。

- ① 糖尿病の急性及び慢性合併症に対する適切な診断ができ、他科的疾患の併発あるいは手術を要する糖尿病患者の管理、対応ができる。
- ② ホルモン測定法、負荷試験の意義を理解し、それによりの確なホルモン動態を判断して治療ができる。
- ③ 肥満、高血圧症、高尿酸血症をはじめとする代謝疾患の病態を適切に判断して治療ができる。
- ④ 眼科、透析、循環器をはじめとする各科医師及び栄養士、理学療法士、薬剤師、看護師と

密に連携し総合的な糖尿病診断を行う。

4. 循環器内科

- ① 医療面接、身体診察、心電図検査、血液検査、画像検査などから、循環器疾患を診断し、治療について方針を決定する能力を養う。
- ② 専門医へのコンサルトは、循環器科診で行うことが出来る。
- ③ 専門病院での研修についても、対応は可能です。

5. 呼吸器内科

- ① 視診、触診、打診および聴診と血液検査、画像検査などから、呼吸器疾患の診断と治療を行う能力を養う。
- ② 専門医へのコンサルトは、呼吸器科診で行うことが出来る

6. アレルギー・膠原病 血液 神経 感染症 内科

- ① 臨床症状から各疾患の予想ができる。
- ② 臨床症状から各疾患に適した検査をオーダーし、その結果を理解することができる。
- ③ 検査データ 臨床症状から鑑別診断をあげられることができる。
- ④ 各疾患に適した専門医に紹介できるプレゼンテーションができる。

当院には専門医がないため具体的目標は設置しない。実際の臨床の場で遭遇した各疾患について専門医と連絡を取り合い研修する。

紹介先の専門医に詳細を確認し研修に出張することは可能である。

【教育に関する行事】

月	午前：上部内視鏡検査、病棟	午後：医療監病棟回診、症例カンファレンス
火	午前：内科外科カンファレンス、病棟	午後：透析穿刺、透析回診、病棟、心エコー
水	午前：腹部エコー、病棟	午後：下部内視鏡検査、ERCP、病棟、抄読会、CPC1回/2ヶ月
木	午前：上部内視鏡検査、病棟	午後：下部内視鏡検査、ERCP、病棟、病診連携カンファレンス1回/2ヶ月
金	午前：腹部エコー、病棟	午後：下部内視鏡検査、ERCP、病棟

指導医等

医療監：山崎富生 副院長・透析センター長：山城有機 診療部長：湯浅貞稔
部長：川西 正敏

研修実施責任者

副院長・透析センター長： 山城有機

〔公立中央総合病院 救急（麻酔科含む）〕

【研修の内容と特徴】

救急は救急部において、内科・外科研修中に行う。平日日中は内科医一名、外科医一名の救急当番を決めて対応し、夜間休日は内科系・外科系の医師の当直・オンコール制をとって対応している。また、放射線技師（夜間は当直）、検査技師もオンコール制をとって対応している。

麻酔科専門医は月・水・木曜日に神戸大学医学部附属病院麻酔科の非常勤医師により対応している。それ以外の日は各科で対応しているが、全身麻酔は主に外科医が行っている。麻酔の研修は外科研修中に行っている。

【研修の実際】

（基本的目標）

救急では救急における基本的手技を身につけ、さらに緊急を要する病態や疾病、外傷に対する適切な診断・初期治療能力を養うことを目的とする。

救急外来を経験することにより、当院の地域医療の特性を見い出すことを目的とする。

麻酔科では麻酔をかけることだけでなく、麻酔研修を通じて臨床医としての必要な手技や診断能力を養うことを目的とする。

（具体的目標）

救急・麻酔科における基本的手技、基本的理解を修得する。症候に対する救急初期治療が出来るようになる。基本研修科目・必修科目における経験目標の中で救急（麻酔科含む）に必要な項目が到達できること。特に地域医療の基盤となるプライマリケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を身につける。

【教育に関する行事】

手術日 外 科 …… 月、水、木曜日

整形外科 …… 水曜日

泌尿器科 …… 月、水、木曜日

産婦人科 …… 月、水、木曜日（月・水曜日は術中迅速病理診断可能）

緊急手術は随時対応可能

市内唯一の公的救急告示機関で、救急外来は 365 日毎日受けている。病例は、内科・外科研修中に救急部において随時経験してもらいます。

指導医

救急・(外科) 院長：山崎 良定 副院長：佐竹 信祐 部長：中島 幸一

(麻酔) 末原 知美 (非常勤)

(内科) 医療監：山崎 富生 副院長：山城 有機 部長：川西 正敏

(整形外科) 藤野 圭太郎 (非常勤) 村上 友彦 (非常勤)

研修実施責任者

院長：山崎 良定

〔公立中央総合病院 外科〕

【研修の内容と特徴】

(特徴)

外科専門医制度修練施設、消化器外科専門医制度指定修練施設に認定されており、専門医取得をめざす外科医に修練の場を提供する。

その内容は消化器外科が中心である。その他、末梢血管外科、乳腺外科、救急手術（急性腹症など）、外傷の創傷処理など日常で遭遇する一般的な外科疾患全般を経験する。

(内容)

消化器外科：開腹あるいは腹腔鏡手術によって消化器外科手術全般にわたって修練する。とりわけ腹腔鏡手術は、胆嚢摘出術、虫垂切除術、ヘルニア手術、結腸直腸癌に適応。また、地域の二次救急に対応し、急性腹症などの緊急手術も経験する。

末梢血管外科：下肢静脈瘤手術、人工透析用シャント造設術など。

乳腺外科：乳癌、その他乳房良性腫瘍など

【研修の実際】

(基本的目標)

外科医としての知識と技術の習得を第一目標とし、さらに外科治療を行うためのチームワークの重要性を体得する。手術手技のみならず、術前術後管理を含めた緻密な全身管理を習得する。

(具体的目標)

外科としての基礎的知識並びに技術を修得することを目標とする。

- 1) 滅菌法の実際（手術の手洗い、創部処置、器具滅菌）
- 2) 基本的な外科手術手技の習得（切開、剥離、糸結び、縫合、点滴など）
- 3) 外科侵襲と病態生理の把握
- 4) 術前・術後管理と術後合併症への対応
- 5) 救急患者に対するプライマリケアの管理
- 6) 手術標本の取扱い方とその実践
- 7) 臨床症例に関する研究会、学会地方会での発表
- 8) 外科系学会（日本外科学会、日本消化器外科学会など）のセミナーや研修会に参加

【教育に関する行事】

- | | |
|-----------|---|
| 月 ～ 金 | 午前：病棟回診 |
| 火 | 午前 8 時 15 分～内科・外科合同カンファレンス
午後 2 時より総回診・術後カンファレンス |
| 金 | 午前 8 時 20 分より海外文献抄読会 |
| 月・水・木 | 午後：手術室・・・手術、麻酔 |
| 土・日及び休日 | 午前：病棟回診・・・自主参加 |
| | その他外来手術、外来検査、外来外傷処置などは随時 |
| 2ヶ月に1回（水） | 午後 5 時 30 分～病理症例検討会 |
| 2ヶ月に1回（水） | 午後 5 時 30 分～マンモグラフィー読影会 |

指導医等

院長：山崎 良定

副院長：佐竹 信祐

部長：中島 幸一

研修実施責任者

院長：山崎 良定

〔公立中央総合病院 小児科〕

【研修の内容と特徴】

当院は周辺人口をあわせると約5万人をカバーする。近隣に小児科の専門医がいないため地域の殆どの小児患者が当院に集まり対象となる疾患も様々である。業務は一般外来診療、喘息、ネフローゼ、発達障害などの慢性疾患を対象とする特殊外来、予防接種や乳児健診などの保健医療、主に急性疾患の入院管理と新生児医療などがある。基本的にプライマリーケアが主である。

【研修の実際】

(基本的目標)

研修期間が短期であることを考慮しプライマリーケアに必要な診断能力、簡単な疾患の治療、専門医に受け渡すまでの処置及びそのタイミングの取得を目指す。

(具体的目標)

以下の3項目を中心に修得することを目標とする。

- ① 新生児、乳幼児の異常所見の見分け方
- ② 小児救急疾患の対応
- ③ 日常診療でよくみられる症状、疾患に対する対応
- ④ 新生児蘇生法の修得

慢性疾患の対応や、期間中に出会わなかった症例には症例問題、症例報告、テキストを用い定期的にレクチャーを行う。また、蘇生法の実習を行う。

【教育に関する行事】

月 ～ 金	午前：一般外来診療
月 ・ 金	午後：一般外来診療
火	午後：慢性疾患診療
火 ・ 水	午後：予防接種・乳児健診・一般外来
※ 木	午後：産科手術立会（主に木曜日）
地域輪番の当番日	救急外来

指導医等

主任部長：前田 太郎 部長：小野 真佐奈

研修実施責任者

主任部長：前田 太郎

〔公立中央総合病院 産婦人科〕

【研修の内容と特徴】

臨床医としての必要な女性診療科における臨床的知識・技能を修得するとともに、医師として女性患者への対応を学び、信頼される医療者としての人格を磨くことを目的とする。

個々の患者にとっての最適の医療を、証拠に基づいて選択し提示できる医師の育成を目指す。現在、産婦人科医師は3名（うち専門医3名）で、年間約400件の分娩（うち帝王切開80件）と200件の手術（うち内視鏡手術90件、悪性腫瘍33件）を行っており、産科と婦人科のバランスのとれた研修が可能である。

【研修の実際】

1. 女性特有の疾患による救急医療を研修する。

卒後研修目標の一つに「緊急を要する病気を持つ患者の初期診療に関する臨床能力を身に付ける」とあり、女性特有の疾患に基づく救急医療を研修する必要がある。これらを的確に鑑別し初期治療を行うための研修を行う。

2. 女性特有のプライマリケアを研修する。

思春期、性成熟期、更年期の生理的、肉体的、精神的変化は女性特有のものである。女性の加齢と性周期に伴うホルモン環境の変化を理解するとともに、それらの失調に起因する諸々の疾患に関する系統的診断と治療を研修する。これら女性特有の疾患を有する患者を全人的に理解し対応する態度を学ぶことは、リプロダクティブヘルスへの配慮あるいは女性のQOL向上を目指したヘルスケア等、21世紀の医療に対する社会からの要請に応えるもので、全ての医師にとって必要不可欠のことである。

3. 妊産婦並びに新生児の医療に必要な基本的知識を研修する。

妊娠分娩と産褥期の管理ならびに新生児の医療に必要な基礎知識とともに、育児に必要な母性とその育成を学ぶ。また、妊産褥婦に対する投薬の問題、治療や検査をする上での制限等についての特殊性を理解することは全ての医師に必要な不可欠なものである。

【教育に関する行事】

月 ～ 金	午前：外来・病棟
月	午後：症例検討会
火	午後：検査
水 ・ 木	午後：手術
金	午後：産科カンファレンス

指導医等

主任部長：植木 健 部長：細谷 俊光 医長：広田 千賀

研修実施責任者

主任部長：植木 健

〔公立中央総合病院 泌尿器科〕

【研修の内容と特徴】

泌尿器科領域の理解を深め、特に日常診療で接する機会の多い疾患に対応する能力を養う。

(指導目標)

指導医の下で受持ち患者の検査・治療の基礎を学ぶ。

① 外 来

- ・ 適切な問診が行え、必要な検査を選定し実施することができる。
- ・ 検査結果より病態把握、超音波検査・腎盂造影・CT scan等の画像診断の読影を学ぶ。
- ・ 尿道膀胱ファイバースコープ等の尿道操作や経直腸的な検査・処置を学ぶ。
- ・ 指導医の管理下に外来診療を行えることを目標とする。

② 病 棟

- ・ 指導医の下で入院患者の担当医を務め、患者の全身状態を把握し検査・治療の計画を立てることができるよう学ぶ。
- ・ 検査・治療計画を病状と併せて患者・家族に理解いただけるよう説明できるよう学ぶ。
- ・ 検査・治療計画を可能な限り、1人で実施できることを目標とする。

③ 手 術

- ・ 当初は第二あるいは第三助手として泌尿器科手術を学び、手術記録を作成できることを目標とする。
- ・ その後、小手術を指導医の指導の下で術者として実施する。
- ・ 腰椎麻酔、仙骨ブロック、閉鎖神経ブロックを安全に行えるように学ぶ。
- ・ 術中の患者の全身状態の観察および異常時の対応を学ぶ。

④ 理解すべき泌尿器科疾患

尿路性器腫瘍、尿路結石、尿路機能障害、尿路・性感染症、尿路性器先天性異常等

【教育に関する行事】

月	外来診療	病棟回診
火	外来診療	病棟回診、処置
水	外来処置	手術、病棟回診
木	外来診療	病棟回診、処置
金	外来処置	病棟回診

指導医等

部長：桑山 雅行

研修実施責任者

部長：桑山 雅行

〔公立中央総合病院 放射線科〕

【研修の内容と特徴】

放射線診療に関する基礎的な知識と技術の習得を目標とする。基礎的な画像診断に関する読影力を習得し、CT 下肺生検や気管支鏡などの肺癌診断手技の適応と研修を行う。また肝動脈塞栓術、リザーバー、ラジオ波焼灼術（RFA）、血管拡張術（PTA）などの IVR の基礎知識や基本的な手技の習得を目的とする。

【内容】

①一般目標

指導者とともに読影や血管造影、IVR 手技を行うことにより、技術的指導と読影に関する基礎的知識の指導と読影の実際に関する留意点やレポートの作成方法の指導を受ける。

②行動目標

1. 各種画像診断法の撮影原理を理解する。
2. 各種画像診断の適応を理解する。
3. 画像解剖を理解する。
4. 造影剤についての基本知識を有し、副作用に対処できる。
5. 読影レポートの基本と役割を理解できる。
6. 頻度の高い疾患について鑑別疾患をあげられる。
7. 消化管造影を指導下を実施できる。
8. 患者及び医療従事者の放射線被曝のリスク低減に配慮できる。
9. 医師、技師、看護師などのコメディカルと連携し、チーム医療ができる。
10. IVR の適応と基本的な手技が理解できる。
11. 悪性腫瘍を有する患者に対する面接の仕方を理解できる。

③研修内容（方略）

1. 放射線業務はすべてスタッフの指導の下に行う。
2. 各種 IVR の適応、手技の確認を指導医と行う。
3. 画像診断は消化管造影、CT、MRI、単純写真、血管造影の読影を行う。
4. 外来、入院患者管理

④教育に関する行事

毎週火曜日 8：15～ 外科内科カンファレンス

第3木曜日（隔月）18：00～ 症例検討会

第4金曜日（隔月）19：00～ 定点読影会（胸部症例）

マンモグラフィー症例検討会（不定期）

週間スケジュール

曜日	午 前	午 後
月	読影、消化管造影	読影
火	読影、リザーバー外来	読影
水	読影、気管支鏡、CT 下肺生検	血管造影、IVR
木	読影、消化管造影	読影
金	読影、消化管造影	読影

指導医等 部長：鈴木靖史

研修実施責任者 部長：鈴木靖史

〔公立宍粟総合病院 地域医療〕

【研修の内容と特徴】

(特徴)

当院は人口約 4.2 万人の山間僻地にある市内唯一の公立病院で、西播磨北部の中核的な医療機関です。救急告示病院として一次、二次の救急を周辺の佐用町、姫路市安富町、たつの市等の市外からも受け入れています。そのため当院の診療圏は宍粟市と周辺の市町村を含め 8 万人程度です。

高齢者比率が全国平均より非常に高いために、高齢者の患者が多く、また寝たきりや認知症患者等の介護・老健施設及び特別養護老人ホームが多くあります。

- 1) 救急外来では、上記施設等より紹介も多く、高齢者の手術及び総合治療等体験できる。
- 2) 市立の診療所（千種・波賀）において僻地医療、在宅医療が体験できる。
- 3) 内科、外科、さらに救急などの研修とともに地域医療の研修が可能である。
- 4) 産婦人科、小児科の研修とともに地域医療の研修が可能である。

【研修の実際】

- 1 地域医療の在り方と現状及び課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を身につける。
- 2 救急外来を行うことで、緊急を要する病態や疾病、外傷に対する適切な診断、初期治療能力を養うことを目標に、特に地域医療の基盤となるプライマリケアの必要性を理解し実践に必要な能力を身につける。
- 3 診療所で一定期間研修し、中核病院と診療所との連携や体制について体験する。
- 4 地域における保健、医療、福祉、介護等、分野間の連携の必要性について学ぶ。

【教育に関する行事】

月 ～ 金 内科、外科の外来及び救急対応（C P A・・・救急室）
夜間・休日 救急外来

月 午後：内科総回診・症例カンファレンス
火 午前：内科、外科、放射線科合同カンファレンス
午後：外科総回診・術前カンファレンス

病診連携カンファレンス 1回/2ヵ月

随時 市立診療所の見学

産婦人科、小児科は各々プログラムに準拠する。

【地域医療表彰】

病院	平成 17 年兵庫県知事	救急業務へき地医療貢献表彰
	平成 18 年兵庫県医師会	地域住民の救急医療確保に貢献表彰
個人	院長：山崎 良定	
	平成 17 年全国自治体病院協議会	僻地医療貢献者表彰
	平成 18 年兵庫県知事	救急業務等功労者表彰
	平成 18 年兵庫県医師会	地域住民の救急医療確保に貢献表彰

医療監 : 山崎 富生
平成 21 年全国自治体病院協議会 へき地医療貢献表彰
副院長 : 山城 有機
平成 24 年全国自治体病院協議会 へき地医療貢献表彰
放射線科部長 : 鈴木 靖史
平成 26 年全国自治体病院協議会 へき地医療貢献表彰
小児科部長 : 前田 太郎
平成 27 年全国自治体病院協議会 へき地医療貢献表彰
泌尿器科部長 : 桑山 雅行
平成 28 年全国自治体病院協議会 へき地医療貢献表彰

指導医

院長 : 山崎 良定 医療監 : 山崎 富生 副院長 : 佐竹 信祐
副院長 : 山城 有機

研修実施責任者

院長 : 山崎 良定